



地球大学アドバンス 第43回

2011.8.22 (月)

[コミュニティ・セキュリティの再構築] シリーズ③

"3.11"後のエネルギー政策をめぐって

福島原発の事故とそれに続く電力不足は、日本経済に影を落とす大きな不安材料であると同時に、日本全体のエネルギー構造や、中東の石油と原発に過剰依存してきた従来のエネルギー政策を根本から見直す好機ともなっています。

災害にも強く地域特性を生かせる自立分散型電源への関心の高まり、省エネ市民の“ネガワット”節電所ネットワークによる柔らかな需給調整の可能性、また原発の総発電容量を超える企業の“埋蔵電源”のポテンシャルなど、これまでの体制下では見えなかった新たな選択肢が確実に私たちの視界に現出しつつあります。

また従来のエネルギー政策は、3.11以前からそもそも持続可能ではなかった。たとえば1998年時点でバレル10ドル以下だった原油価格は、たった10年で100ドルを超えるレベルに急騰。日本の化石燃料の輸入コストは、98年の5兆円から08年には23兆円にまで膨れ上がりました。

石油に依存した社会経済は、「環境的」のみならず「経済的」にもすでにサステナブルではない。原発も耐用年数や使用済み燃料の処理などを考えれば、自然災害やテロのリスクを差し引いても、到底明るい将来展望を描けるはずもない。——こうした“3.11”以前から明らかだったエネルギー構造転換の必然性が、今回の事故を契機に顕在化したのだと考えれば、これは幕末における「黒船」にも比すべき転機と考えるべきでしょう。

今回は環境経済学の第一人者として、また政府の東日本大震災「復興構想会議」検討部会委員として、エネルギー政策の根本的な見直しを提言する植田和弘氏とともに、こうした問題をじっくり論議してみたいと思います。

ゲスト: 植田和弘氏 大阪大学大学院工学研究科博士課程修了。1997年より京都大学大学院経済学研究科教授、2002年より同大学大学院地球環境学教授(兼任)。
専門は環境経済学。主な著書として『廃棄物とリサイクルの経済学』(有斐閣, 1992)、『環境経済学』(岩波書店, 1996)、『サステナビリティの経済学』(岩波書店, 2007)など。

開催概要

日時: 2011年8月22日(月曜日)

18:00 受付開始 / 18:30 開演 / 20:30 終了

企画・司会: 竹村真一氏

Earth Literacy Program 代表
エコツェリア・コンテンツプロデューサー
地球大学アドバンス 総合企画・コーディネーター
京都造形芸術大学教授

会場: 新丸ビル10階「エコツェリア」

地図: <http://ecozeria.jp/access.htm>

定員: 50名(先着順: 定員になり次第締め切りとさせていただきます)

参加方法: 事前登録が必要です 以下のURLからお申し込みください
<http://www.ecozeria.jp/earth/>

参加費: 2000円

ただし、エコツェリア会員企業に所属の方は無料です
(照会いたしますので、名刺または社員証をお持ちください)